

播磨 まちかど ニュース

With いなみ野学園

瓦版



兵庫県いなみ野学園では、大学院生などの受講生が自主制作として、地元ケーブルテレビ局「BAN-BANテレビ」と協働し、テレビ番組「播磨まちかどニュース With いなみ野学園」を制作しています。学園内外の魅力的な活動を映像で紹介する15分の番組です。瓦版では、これまでの配信動画の内容を紹介しています。

★★最新の配信動画★★

現在、いなみ野学園ホームページに掲載している動画をご紹介します。

播磨まちかどニュース with いなみ野学園 86

同窓研修会 パソコン・太極拳サークルを訪ねて

◆配信日：令和6年11月1日◆



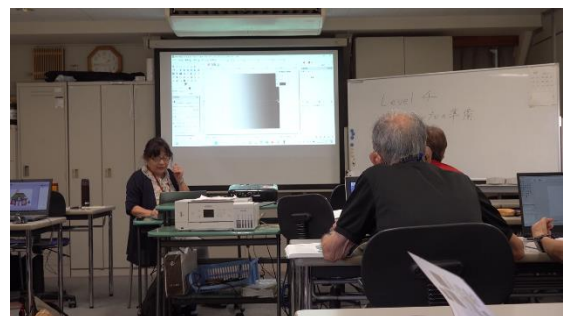
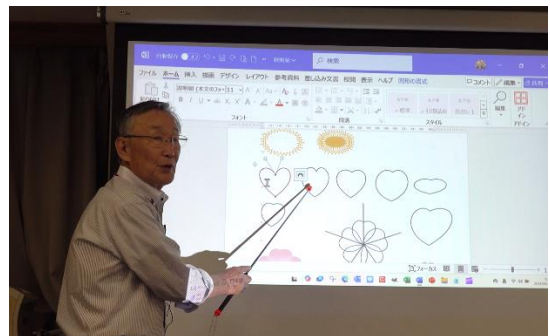
今回は、いなみ野学園のサークル活動の様子をお伝えします。いなみ野学園には、大学卒業後も生涯学習を続けるOBの集まり「同窓研修会」があります。その中には35ものサークルがあり、仲間と共に趣味を楽しみ、技量を磨き合う活動の場となっています。今回はその内の「パソコンサークル」と「太極拳サークル」を紹介します。

《パソコンサークル》

プロジェクターの画面を見ながら、講師の指導の下、受講生もみなさん真剣に取り組んでいます。講師も同じサークル仲間からその分野に得意な方が指導をされ、お互いが学び合い、お互い同士で助け合う、そんな関係でつながる「パソコンサークル」です。

今回、「ワードアート作品」について教えて

いました。ワードは文章を作成するためのものだと思っていたので、絵が描けるなんて驚きでした。



勉強会では、外部講師ではなく同じ仲間の方が先生をされ、今回は「ワードアート」に得意な細川博司さんが指導役を務め、それをサポートするアシスタント役の方も同じパソコン仲間とのことでした。受講生のみなさんも熱心にパソコンに向かい合い、困った時はア

シスタント役の方がすぐについて教えてくれ、和気あいあいの雰囲気の中、一人一人が真剣な眼差しで取り組まれていました。



ゆったりとした動きの中にも、片足を上げてバランスを取ったりしなければならず、見た目以上に結構体力がいるなあと思いました。実際、されている方から「きつい」とお聞きしました。



パソコンサークルの会長である一瀬充弘さんにインタビューをしました。「75名の部員で、経験20年以上の方から今年初めての人までいて、長年やっている方が講師になって教えてくれ、互いに仲良くなれます。サークルのモットー『教わり、教え、教えられ』の関係を大事にしています」と話してくれました。

パソコンサークルは、「教わり、教え、教えられ」の交流の場であり、仲間づくりの場であること。また、パソコンは頭と指先を同時に動かすことで何よりも老化防止になり、認知症予防にもなることなど、よくわかりました。

《太極拳サークル》

ここは、OBの太極拳サークルと現役の太極拳クラブの交流活動が、普段から活発に行われています。こちらも「教え、教えられ」する交流の場となっています。



その大所帯をまとめられているサークル部長柏原藤一郎さんにインタビューしました。「段を持つ方から初心者の人まで幅広く部員がいて、練習内容もそれぞれに応じてやっています。体の健康を第一に、楽しくゆったりと活動していきたい」と話されていました。



今回、35サークルの中から、2サークルを紹介しました。みなさん、老化防止に、また認知症予防に、サークル活動に熱心に取り組まれていました。

同窓研修会のサークル活動日は毎週の土曜日。今回のパソコンサークル・太極拳サークルの他のサークルも同様、仲間同士のつながりを大事にし、互いに切磋琢磨しながら活動しています。殊に各サークルはボランティア活動にも積極的で、あちこちから招かれて日頃の技を披露したりして、地域貢献に進んで関わっています。みなさん元気で活動していました。

(ナレーション：大前小夜子)

感動と熱気の祭典！ 生石神社 秋季例大祭

◆配信日：令和6年11月16日◆



「よーいやさー、よーいやさー」、神輿を担ぐ担ぎ手の勇ましい声で、「ああ、秋祭りだ！！」と。

各地で行われた「秋季例大祭（秋祭り）」。
今回は、高砂市の生石（おおしこ）神社での秋季例大祭の様子をお伝えします。生石神社は、「日本3奇」の一つ、つまり宮崎の天の逆鉾（あまのさかほこ）、釜石の塩竈（しおがま）、高砂の石の宝殿（いしのほうでん）、その石の宝殿が鎮座するところとして有名です。石造物が横倒しになって切り出されたままが残り、「何故なのか？」は未だに解明されていない謎のまま、今に至っています。



この生石（おおしこ）神社の秋季例大祭が、令和6年10月19日（土）と20日（日）の2日間行われました。生石神社は、毎年、当番班が輪番で持ち回り、今回は、加古川市東神吉町西井ノ口の町内会がその担当当番班となりました。7年ぶりの当番で、この祭りもそうですが、担当するとなるとな

かなか大変です。それまでの様々な準備があって、そして本番を迎えられたのですから。

一日目（「宵宮」）は生憎の雨に。でも予定通りに神事は進みました。朝一番には西井ノ口大年神社での「出立ちの儀」から始まり、生石神社へ移動して神輿の蔵出し、そして本殿に神輿を納めて「渡御の儀」の神事が行われ、練り場では神輿の練り合わせが行われました。



二日目（「本宮＝昼宮」）はカラッと晴れた晴天に。前日同様、大年神社での神事から始まり、生石神社への神輿の宮入り、続いて本殿での神事が行われました。また、練り場では神輿の練り合わせ、屋台の練り合わせ、太鼓の披露、竹割りなど、また能舞台では獅子舞など次々に披露されました。大勢の観客の見守る中で、担ぎ手、叩き手、登り手のみなさんが力いっぱい、元気いっぱい、そして「よーいやさー、よーいやさー」の力強い掛け声とで大いに盛り上がりました。



最後に再度神輿の練り合わせ、屋台の練り合わせが・・・、正にクライマックスの力強さが感じられました。2日間を滞りなくやり通して無事に今回の「秋季例大祭（秋祭り）」も幕を閉じました。参加されたみなさん、本当にご苦労様でした。



神輿の練り合わせは、「壊れるんじゃないか」と心配するほど、想像以上の迫力で、「ドーン、ドーン」とぶつかり合う音にハラハラドキドキしながら見ていました。「壊れるほど神様は喜ばれる」と言うことだそうですが、一方、「胃が痛む」と言う人もいて・・・。つまり、「後の修理代が心配だ」とのことらしいです。



町内上げての取り組み、みなさんの一致団結した姿は見ていて、とてもカッコいいなと思いました。それぞれの地域で行われる秋季例大祭。伝統

を守り、そして伝統を継承していくことで何十年、いや何百年と続いてきたのですね。老若男女が祭りを通して楽しさを共有でき、一緒に関わることで愛着もできて、「また来年もがんばろう」となるのでしょうか。「よーいやさー、よーいやさー」の掛け声で、みなさんの気持ちが一緒になってさらに力もするのだなあと思いました。あの力強い声が耳から離れません。また、来年も楽しみにしたいです。

(ナレーション：吉川 千代子)

【いなみ野学園 動画配信ホームページ】

https://www.hyogo-ikigai.or.jp/ikigai/video/video_inamino_summary.html



《編集・発行》

いなみ野学園 ビデオ制作委員会 (いなみ野学園大学院講座・研究生) ☎ 079-424-3342